

【表紙】

【提出書類】 内部統制報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の4第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年6月18日

【会社名】 株式会社守谷商会

【英訳名】 MORIYA CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 伊藤 由郁紀

【最高財務責任者の役職氏名】 該当事項はありません。

【本店の所在の場所】 長野県長野市南千歳町878番地

【縦覧に供する場所】 株式会社守谷商会 東京支店
(東京都千代田区岩本町二丁目3番3号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【財務報告に係る内部統制の基本的枠組みに関する事項】

代表取締役社長伊藤由郁紀は、当社の財務報告に係る内部統制の整備及び運用に責任を有しており、企業会計審議会の公表した「財務報告に係る内部統制の評価及び監査の基準並びに財務報告に係る内部統制の評価及び監査に関する実施基準の改訂について（意見書）」に示されている内部統制の基本的枠組みに準拠して財務報告に係る内部統制を整備及び運用しています。

なお、内部統制は、内部統制の各基本的要素が有機的に結びつき、一体となって機能することで、その目的を合理的な範囲で達成しようとするものです。このため、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性があります。

2【評価の範囲、基準日及び評価手続に関する事項】

財務報告に係る内部統制の評価は、当事業年度の末日である2026年3月31日を基準日として行われており、評価に当たっては、一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠しました。

本評価においては、連結ベースでの財務報告全体に重要な影響を及ぼす内部統制（全社的な内部統制）の評価を行った上で、その結果を踏まえて、評価対象とする業務プロセスを選定しています。当該業務プロセスの評価においては、選定された業務プロセスを分析した上で、財務報告の信頼性に重要な影響を及ぼす統制上の要点を識別し、当該統制上の要点について整備及び運用状況を評価することによって、内部統制の有効性に関する評価を行いました。

財務報告に係る内部統制の評価の範囲は、会社及び連結子会社について、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性の観点から必要な範囲を決定しました。財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性は、金額的及び質的影響並びにその発生可能性を考慮して決定しており、会社及び連結子会社1社を対象として行った全社的な内部統制の評価結果を踏まえ、業務プロセスに係る内部統制の評価範囲を合理的に決定しました。なお、連結子会社4社については、金額的及び質的重要性の観点から僅少であると判断し、全社的な内部統制の評価範囲に含めていません。

業務プロセスに係る内部統制の評価範囲については、当社グループは主な事業が建設事業であり、経営管理上各事業拠点における売上高を重視していることから、事業拠点の重要性を判断する指標として完成工事高が適切であると判断しています。一方で当社グループは不動産事業等も行っており、これらから発生する収益を含んだ指標が各事業拠点の重要性を判断する指標として「連結売上高」が適切と判断し、全社的な内部統制の評価が良好であることを踏まえ、連結売上高のおおむね3分の2程度に達している1事業拠点を「重要な事業拠点」としました。評価範囲に含まれていない事業拠点については、金額的重要性及び質的重要性並びにその発生可能性が僅少であることを確認しています。選定した重要な事業拠点においては、主な事業である建設事業において多額に計上される勘定科目である完成工事高、完成工事未収入金及び未成工事支出金等に至る業務プロセスを企業の事業目的に大きく関わる勘定科目に係る業務プロセスとして評価の対象としました。さらに、重要な虚偽記載の発生可能性が高く、見積りや予測を伴う重要な勘定科目に係る業務プロセス（税効果会計プロセス及び工事損失引当金の計上プロセス等）やリスクが大きい取引を行っている事業又は業務に係る業務プロセス（有価証券・投資有価証券の評価プロセス及び兼業事業売上高の計上プロセス等）を財務報告への影響を勘案して重要性の大きい業務プロセスとして評価対象に追加しています。

3【評価結果に関する事項】

上記の評価の結果、当事業年度末日時点において、当社の財務報告に係る内部統制は有効であると判断しました。

4【付記事項】

付記すべき事項はありません。

5【特記事項】

特記すべき事項はありません。